

PSLXバージョン3
プロジェクトキックオフ会議

進化可能なネットワーク型製造業 のための 情報連携プラットフォーム

2014年5月22日

APSOM／PSLXフォーラム

西岡 靖之

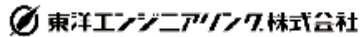
本日のアジェンダ

1. プロジェクト概要と進め方
2. PSLX3仕様と連携方法の説明
3. PSLXフォーラムの運営とビジネス展開

情報連携バトル(公開実証実験)



YOKOGAWA



現場発“IT カイゼン”用ツール群

PSIX プラットフォーム
NPO 法人ものづくりAPS推進機構



APSOM

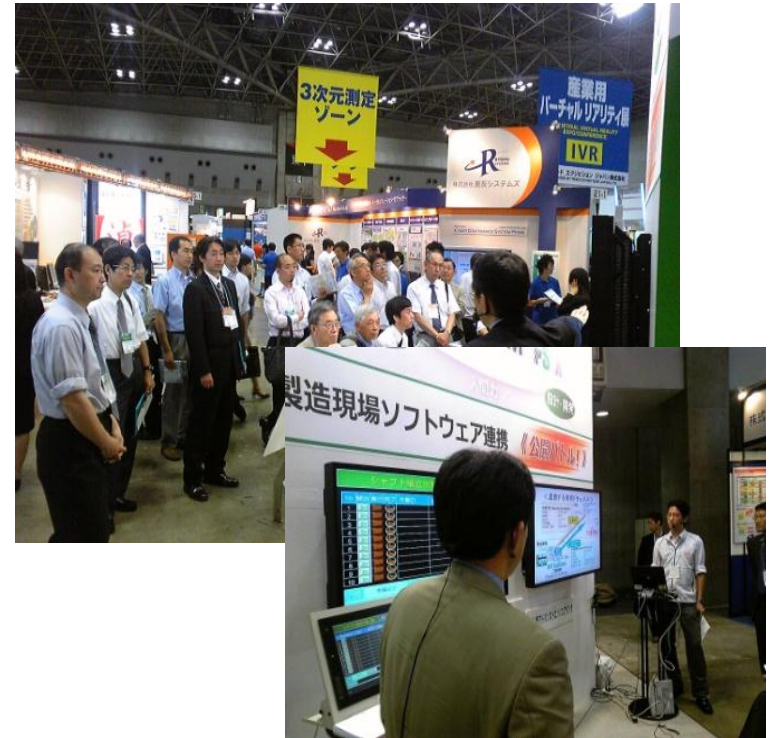
異なる企業のソフトウェアがつながる!



株式会社ものづくりAPS推進機構



DMS2009 東京ビックサイト




情報連携<公開バトル>
~次世代製造業への挑戦~
書籍として出版決定! 好評販売中

情報連携<公開バトル！>

バトル1

APSOM／PSLX  エクサ


バトル2

APSOM／PSLX  構造計画研究所


バトル3

ロジックスジャパン  シムトップス

バトル4

日立東日本ソリューションズ  東洋エンジニアリング


バトル5

三菱電機  アスプローバ


バトル6

三菱電機  富士通アドバンストエンジニアリング

バトル7

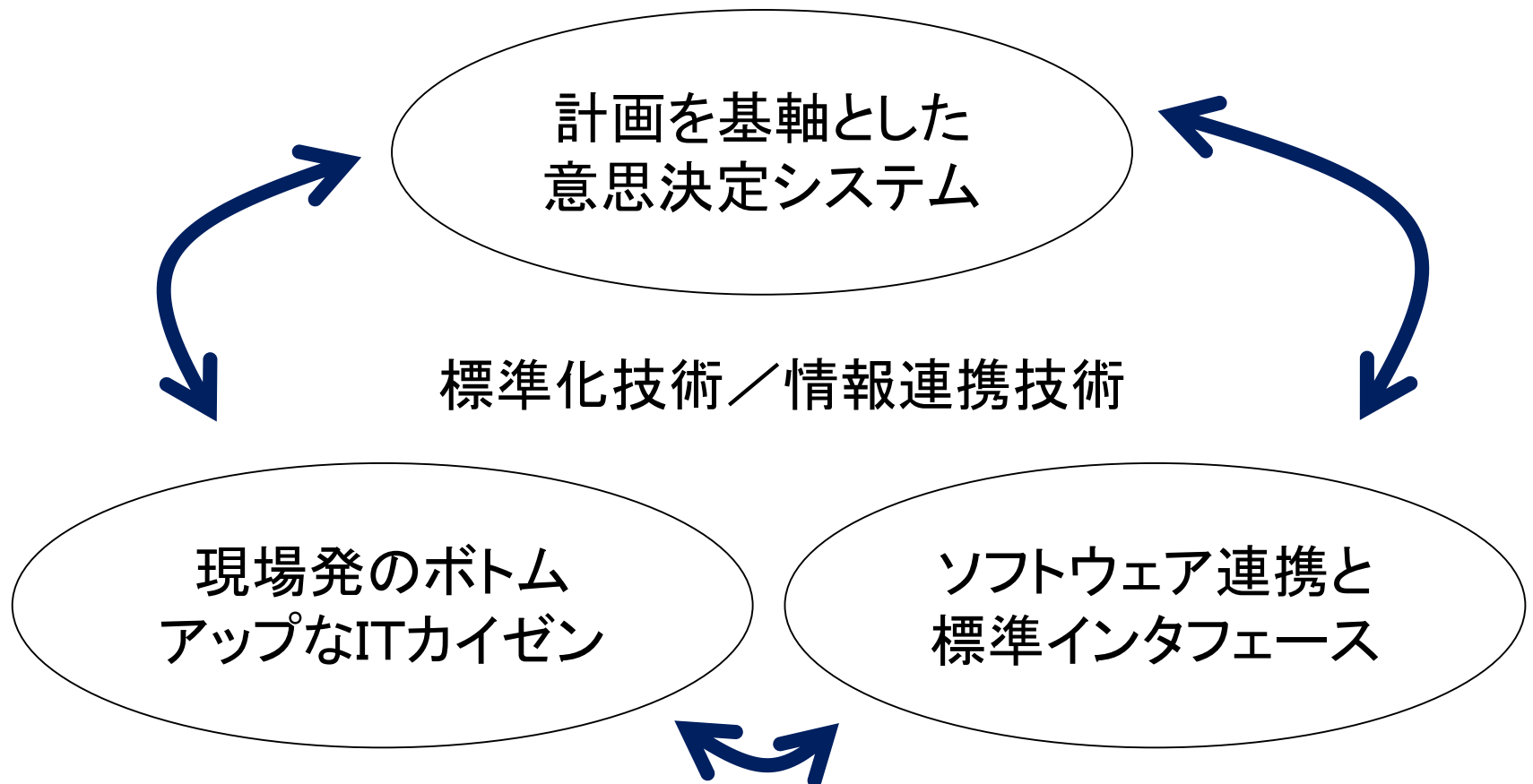
富士通アドバンストエンジニアリング  横河電機

バトル8

横河電機  ケー・ティー・システム

APSOM／PSLXの得意分野

Planning and Scheduling on Lifecycle information eXchange



背景

- 製造現場で利用するソフトウェアの場合、製造方法の独自性を考慮するために、個別の作りこみが多く、生産性が低いと同時に、継続的なメンテナンスの障害となる。
- 中小企業あるいは海外展開した工場では、高度なシステムよりも、安価で組合せ可能なシステムを用いて6割の満足度で利用するほうが現実的
- インテグレーションでは、最終的に誰が品質に責任をもつかを明確にする必要がある。オープン標準は実ビジネスモードの推進団体が必須。

目的

- 製造オペレーション管理に関連する情報システムの標準仕様としてPSLX3を定義し、それにしたがってコア部を製造したソフトウェアのインテグレーションコストを下げる。
- PSLX3を採用したソフトウェア製品およびインテグレーションツールを充実させることで、トータルなシステム構築、運用コストを下げ、製造業の競争力向上を図る。

プロジェクトの対象

- 中堅、中小製造業、または大手製造業の製造部門あるいは製造子会社で、製造現場のオペレーションを、できるだけ少ない投資によるITを用いて効率的かつ柔軟に行ないたい企業
- 製造現場にて利用するソフトウェアを販売するベンダーあるいはそれらをインテグレーションするSIerやコンサルタントで、常に変化するニーズにきめ細かく対応したい企業。

提供されるもの(アウトプット)

- PSLX3プラットフォーム概要(一般公開)
 - PSLX3リファレンスモデル(一般公開)
 - PSLX3実装マニュアル(一般公開)
-

- PSLX3物理スキーマ(参加企業のみ)
- PSLX3接続テスト環境(参加企業のみ)
- PSLX3連携デモシナリオ(参加企業のみ)

実施スケジュール

- 4月 企画立案、運営委員会承認、案内開始
- 5月 キックオフ、仕様書公開&レビュー
- 7月 仕様書FIX、実装環境の提供
- 7月 仕様書パブリックレビュー
- 9月 連携デモ接続テスト(1日程度)
- 10月 連携デモ用シナリオ打合せ
- 11月 見える化展での展示、連携デモの実施
- 12月 フォーラム拡大、第2期メンバー合流

仕様決定の基本方針

1. 共通部分の抽出

- カスタマイズを前提とする。プラグインを求めない。カスタマイズは足し算方式。

2. 実システムから抽出

- 実際に存在するシステムをベースにモデル化する。理想形を追わない。

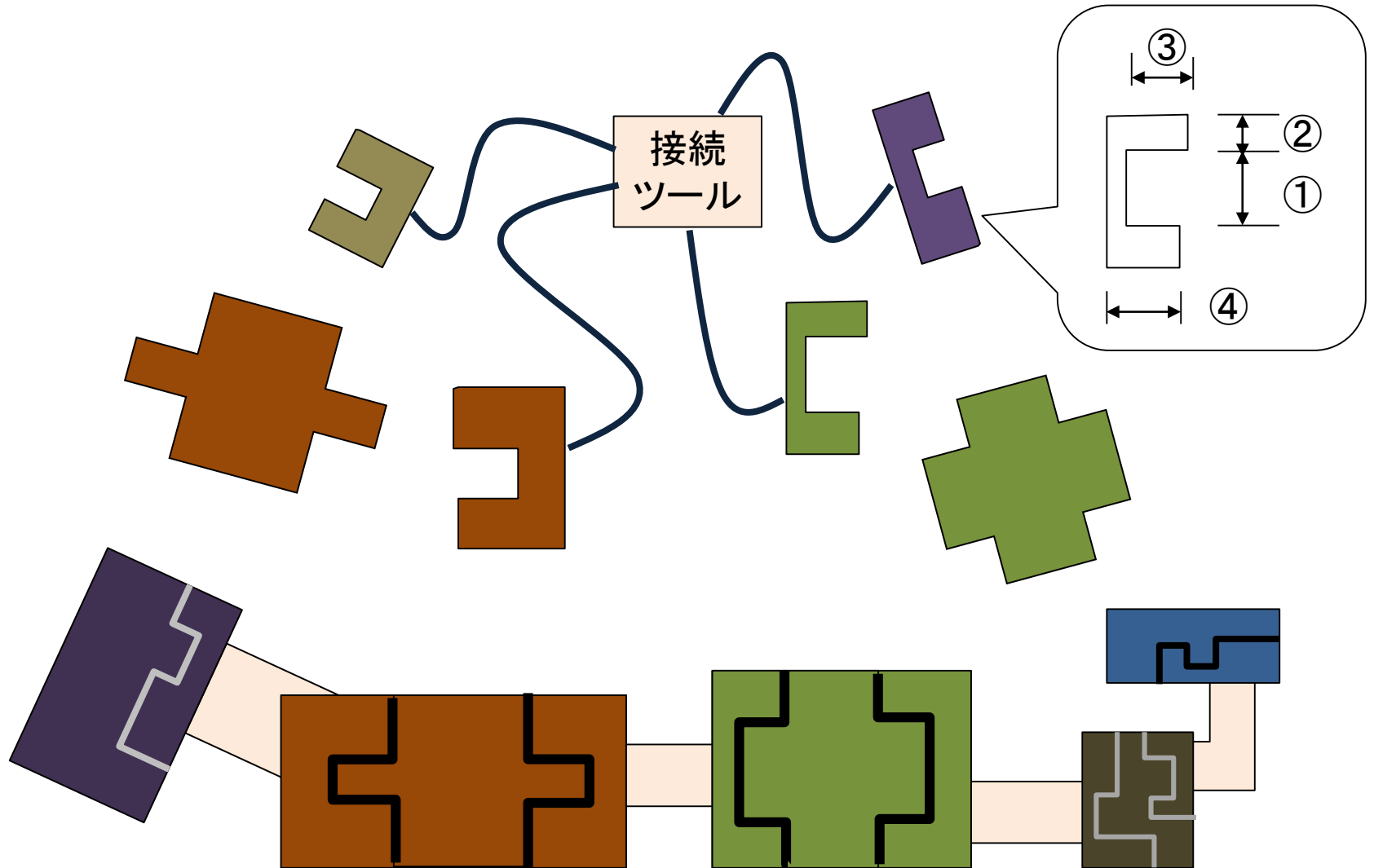
3. 無理に決めずにブランクとする

- 独自に設定した部分は、公開する（公開方法を指定する。）

4. 複数仕様の共存

- 1つの共通仕様に集約させない。いくつかのオプションを残すこともありとする。

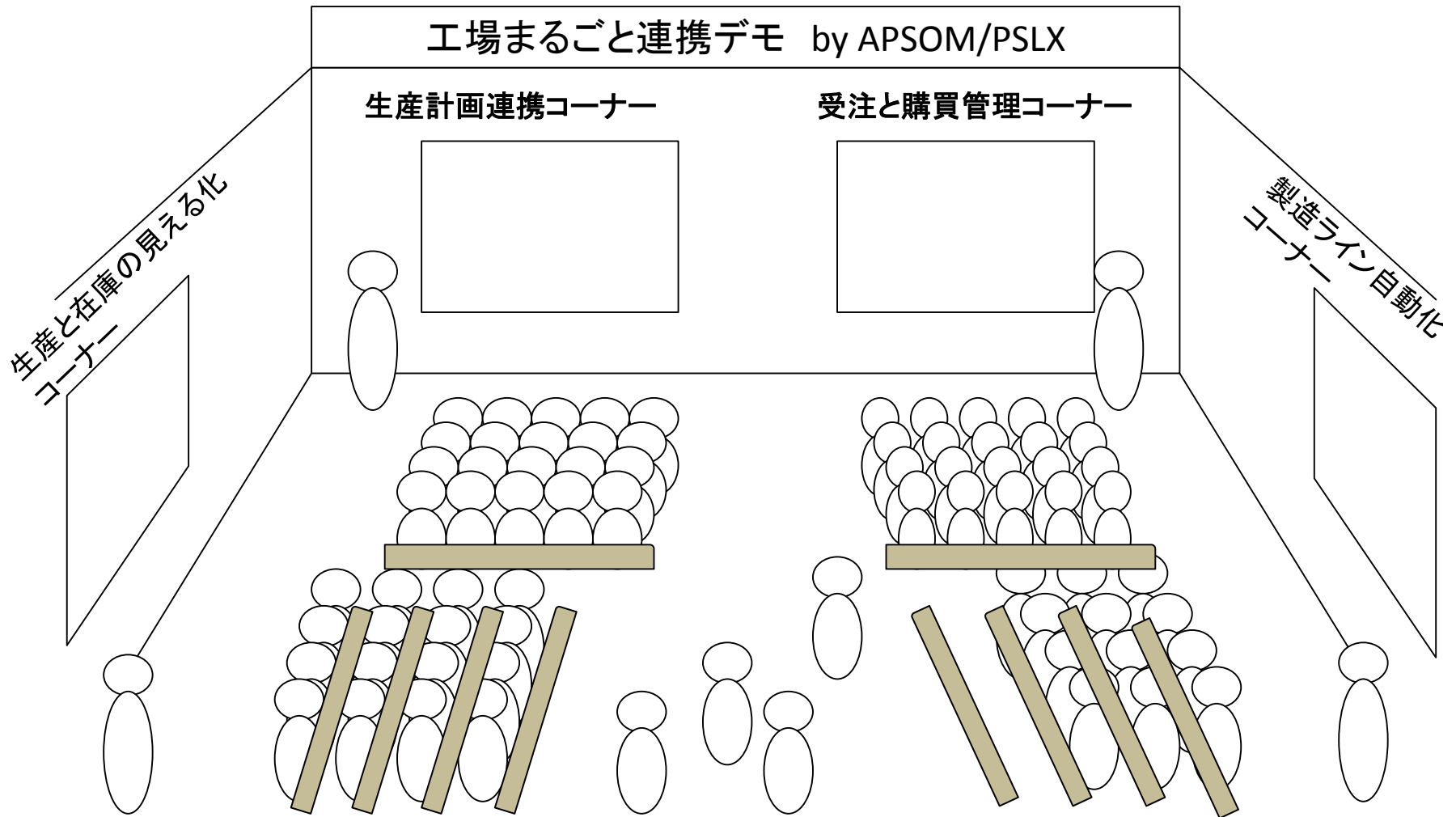
どうやって使うのか？



粒度とスコープ

- スコープは業務アプリケーション間
 - 業務アプリケーション間で連携が必要な場合を想定。実装上のソフトウェアコンポーネント間、ロジック間などは対象外
 - アプリケーションと技術DB、実績DBなど外部DBは対象となる
- 最小単位は業務アプリの機能モジュール
 - 対象粒度は、業務パッケージ単位でなく、業務アプリの機能(モジュール)単位
 - 機能モジュールとは、開始後一連の処理が終わり、保存可能なデータのアウトプットが得られるまで

連携デモ(見える化)



タイムテーブル

11月13日(木)、14日(金)

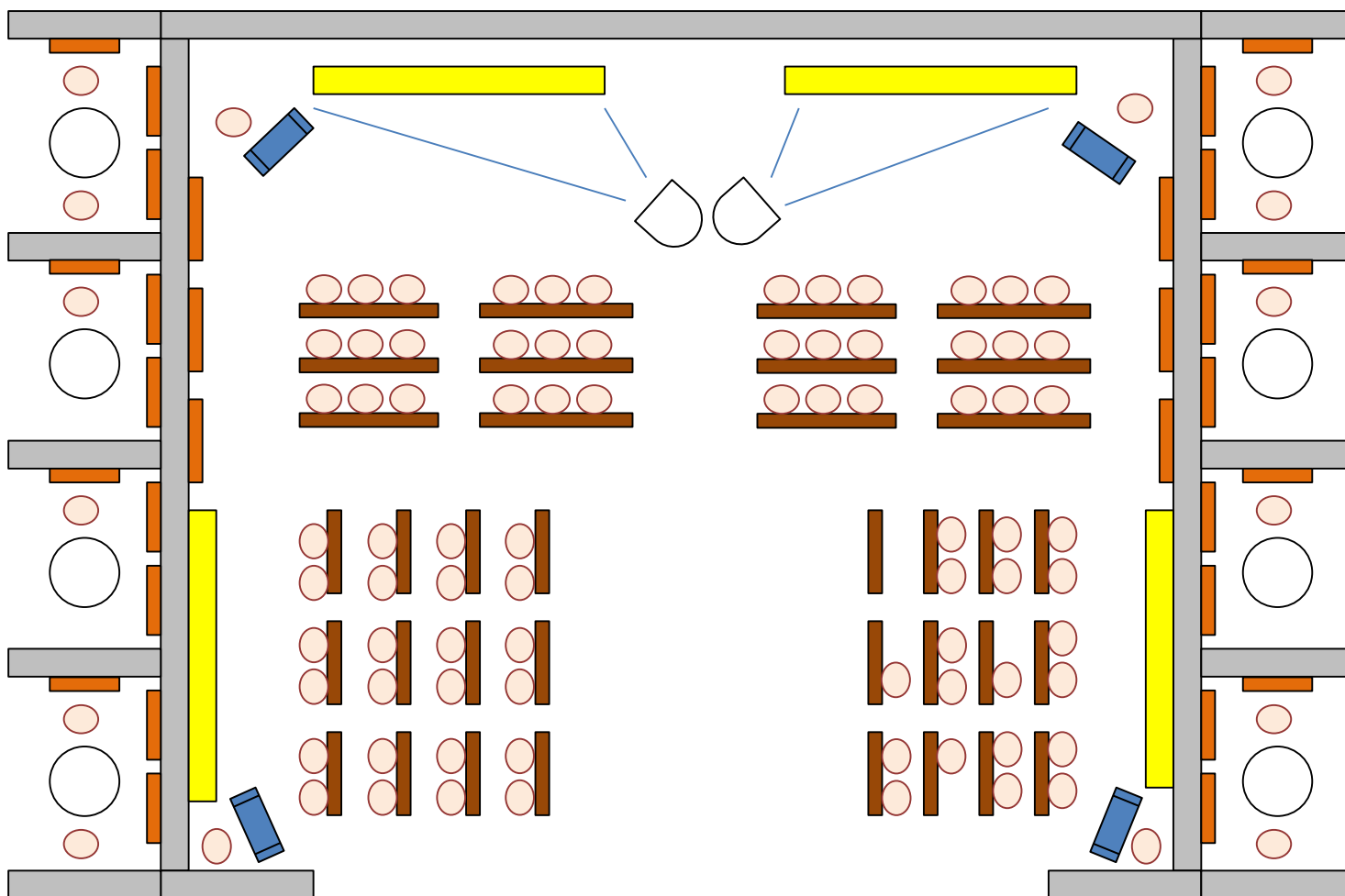
フォーラムメンバーが
レクチャー1~8のいずれかを担当する

レクチャーでは、
製品の宣伝ではなく
ためになる知識を
提供する。

	受注と 購買管理	生産計画 連携	生産と在庫 見える化	製造ライン 自動化
10:00				
10:30				
11:00	レクチャー2		レクチャー6	
11:30		レクチャー4		レクチャー8
12:00	連携デモ			
12:30	連携デモ			
13:00	レクチャー1		レクチャー5	
13:30		レクチャー3		レクチャー7
14:00	レクチャー2		レクチャー6	
14:30		レクチャー4		レクチャー8
15:00	連携デモ			
15:30	連携デモ			
16:00	レクチャー1		レクチャー5	
16:30		レクチャー3		レクチャー7

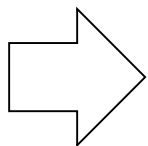
11月12日(水)は、日本機械学会共催セミナーを企画中です。 15

連携デモとブースによる個別対応



参加費用

- 連携フォーラムの参加費用は徴収しない。ただし、非会員は10万円。
- 見える化展でのデモ+ブース出展の場合は実費(30万円程度)
- 連携デモのみの参加+パネル展示の場合はディスカウント(10万円程度)



プロジェクト終了後は、フォーラムの有料メンバーとしての特典(HPでの紹介、開発ツールと物理スキーマ等の継続的な利用など)

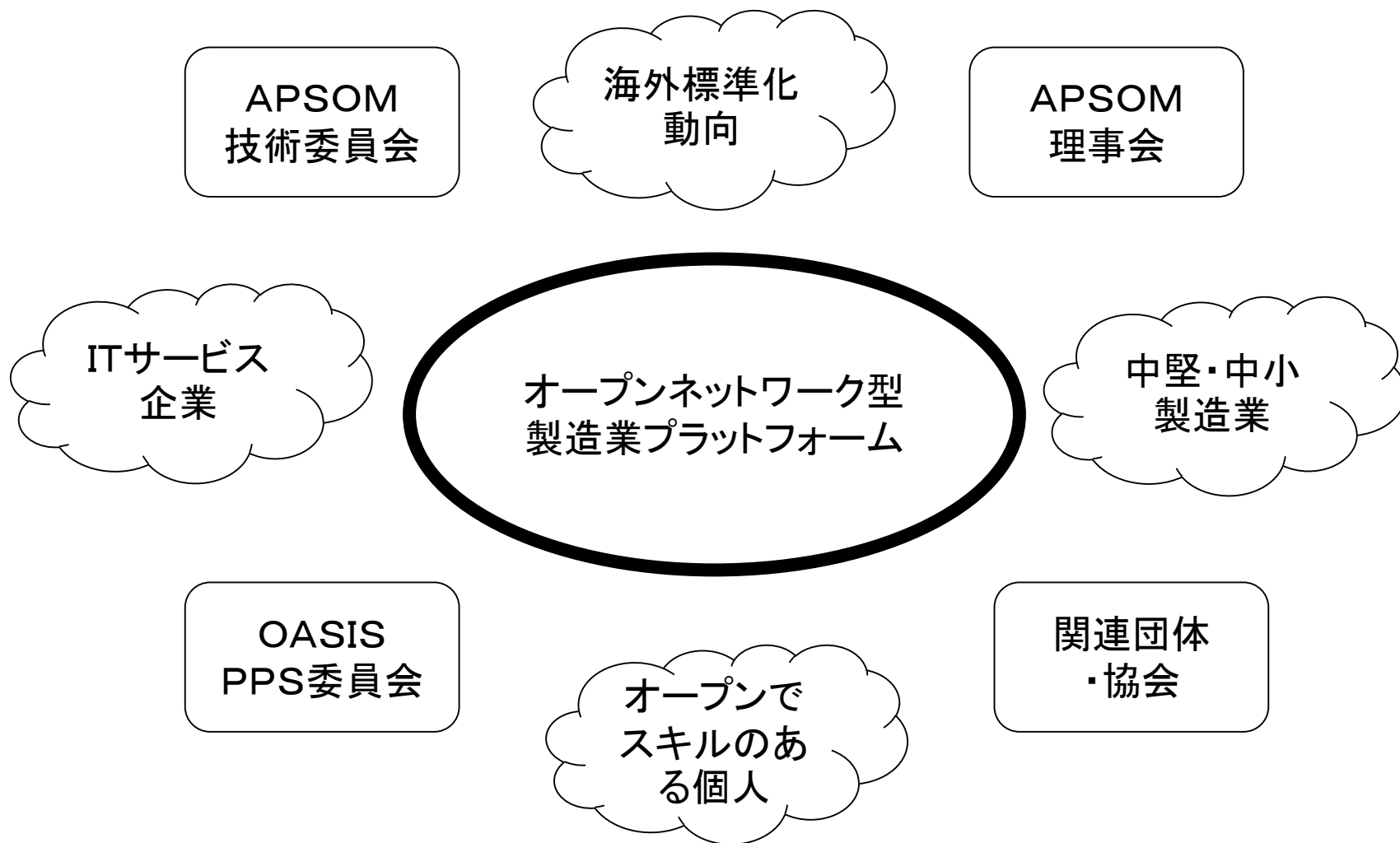
基本ポリシー

1. PSLX3仕様は公開とし、その利用にあたっては無償とする。仕様の所有権はAPSOMが保持する。
2. PSLX3に対応したソフトウェアは、そのインタフェースを公開とする。ソフトウェアの品質はベンダーが管理する。(APSOMは認証)
3. PSLX3仕様の決定は、他の標準との整合性やエンドユーザーの利便性を第一として行う。特定ベンダー仕様に依存しない。

PSLXフォーラム組織

- PSLXフォーラムメンバー
 - 従来のフォーラムメンバーと同様。HPより個人の立場で自由に入会、退会可能。費用は無料
- PSLXフォーラム有償メンバー
 - 今回のプロジェクトメンバー。個人または企業。物理スキーマや連携ツール等の利用可能。HPにて企業名を宣伝。
- PSLXフォーラム技術開発メンバー
 - 物理スキーマや連携ツールの開発を担当。ソースコード入手可能。ボランティアベース。有償メンバーからの紹介により参画してもらう。

(新)PSLXフォーラム



ビジネス展開

- 中堅、中小製造業メンバー
 - 従業員100名以下の場合は、年会費1万円で、支援が受けられる(有償メンバーに準ずる)
- 製造業SI企業、ITCメンバー
 - 企業の場合は年会費10万円、個人のITCの場合は、年会費1で、フォーラム有償メンバー。
- APSOM会員
 - APSOM会員は、申込みにより、追加費用なしでPSLXフォーラムの有料会員となれる

今後の作業(お願い)

7月まで

- 業務アクティビティ(ユースケース)の追加
- 業務オブジェクトの項目の精査
- 業務アクティビティ間のシナリオの抜粋

7月以降(9月まで)

- システムの仮実装
- 業務シナリオの決定
- PSLX3(パブリックレビュー)のコメント